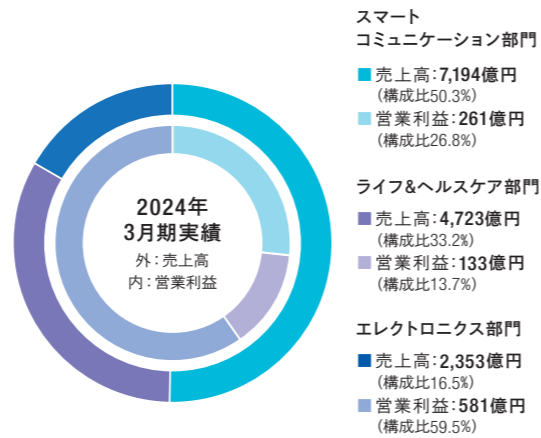


部門別事業戦略

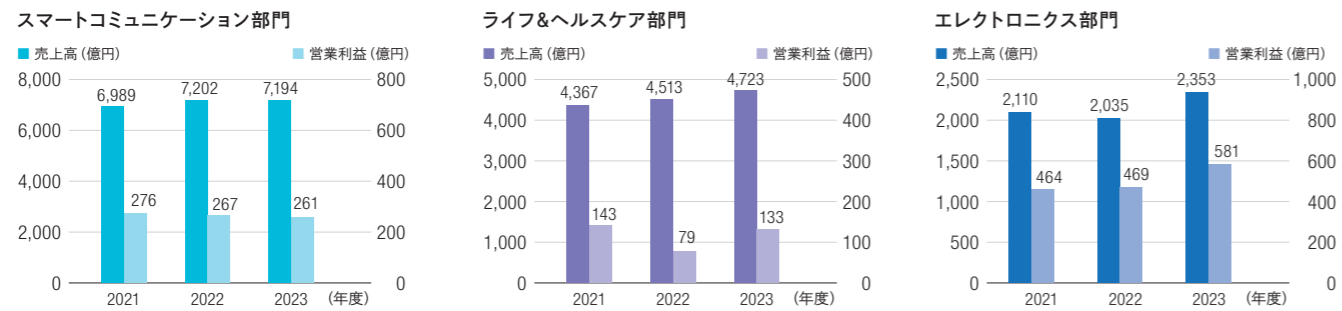
各事業部門の主な戦略

DNPは国内外の数万社の顧客企業や生活者に対し、幅広い事業分野の多様な製品・サービスを通じて、欠かせない価値を提供し続ける世界最大規模の総合印刷会社です。1876年の創業から時代の最先端の印刷プロセスに基づく強みを培い、1950年代にはそれらの強みを応用・発展させて事業領域を拡大する「拡印刷」をスタートして、現在の事業部門につなげてきました。

2023-2025年度の中期経営計画では、市場の成長性・魅力度と収益性を軸に各セグメントの製品・サービスを「成長牽引事業」「新規事業」「基盤事業」「再構築事業」に位置づけ、強靱な事業ポートフォリオの構築を推進しています。注力事業領域等への集中投資や事業構造改革などを加速させて、さらなる価値の創出に努め、未来をより良いものにしていきます。



各セグメントの3年間の業績推移



※2021・2022年度は別セグメントだった「飲料部門」を2023年度から「ライフ&ヘルスケア部門」に含めています。

ライフ&ヘルスケア部門

世界トップシェアのリチウムイオン電池用バッテリーパウチや、モビリティ用の内外装加飾材に代表される「モビリティ・産業用高機能材関連」を成長牽引事業として推進するほか、新規事業として医薬品製造や医療パッケージ等の「メディカル・ヘルスケア関連」を強化。また、PETボトル用無菌充填システム (国内トップシェア) や環境配慮パッケージの「包装関連」、住宅用内外装化粧材 (国内トップシェア) 等の「生活空間関連」、「飲料事業」の事業を展開しています。注力事業領域への投資に加え、既存事業のグローバル展開も推し進めます。

- 【当部門の強み】
- 独自の材料加工技術であるコンバーティング技術を駆使した、さまざまな機能性フィルムで、安心・安全・健康・快適・環境の本質的な価値を提供
 - 世界トップシェアのリチウムイオン電池用バッテリーパウチ、国内トップシェアのPETボトル用無菌充填システムや住宅用内外装化粧材等による実績と信頼

モビリティ・産業用高機能材関連 (約750億円)

- リチウムイオン電池用バッテリーパウチ
- 太陽電池関連
- 自動車用製品加飾フィルム等

メディカル・ヘルスケア関連 (約420億円)

- 原薬事業/製薬事業
- 医療パッケージ事業
- 医療関連のその他事業
 - ・製薬企業の治験受託
 - ・画像診断事業
 - ・付加価値型医薬品開発
 - ・再生医療や細胞医薬品関連の各種部材の開発など

包装関連 (約2,300億円)

- 無菌充填システム
- 機能性包材

生活空間関連 (約620億円)

- 内装材
- 外装材

飲料事業 (約560億円)

その他 (約70億円)

スマートコミュニケーション部門

世界トップシェアの昇華型熱転写記録材を含む「イメージングコミュニケーション関連」、BPOや認証セキュリティ等に代表される「情報セキュア関連」、新規事業である「コンテンツ・XRコミュニケーション関連」のほか、「マーケティング関連」「出版関連」の事業を展開。企画・設計や情報処理等の「I: Information」の技術と、製版・印刷・製本等の「P: Printing」の技術を掛け合わせ、国内外のパートナーとの連携を深めて、心豊かな暮らしに貢献していきます。

- 【当部門の強み】
- 高精細画像処理技術や、大量のデジタルデータ等をセキュアに流通させ、ビジネスプロセスを統合・最適化させる能力を活かし、新しい顧客体験価値を提供
 - 世界トップシェアの昇華型熱転写フォトメディア製品や、国内トップシェアの金融機関向けICカード等による実績と信頼

イメージングコミュニケーション関連 (約1,050億円)

- 写真プリント用昇華型熱転写記録材
- 昇華型フォトプリンター
- 証明写真機「Ki-Re-i」

情報セキュア関連 (約2,080億円)

- BPO
- ICカード
- 認証・セキュリティ

新規事業など (約220億円)

- コンテンツ・XRコミュニケーション関連
- 教育関連

マーケティング関連 (約1,300億円)

- デジタルマーケティング
- 商業印刷

出版関連 (約2,550億円)

- 「honto」(書籍販売等)
- 雑誌・書籍

エレクトロニクス部門

ともに世界トップシェアのディスプレイ用光学フィルム*や有機ELディスプレイ製造用メタルマスク等の「デジタルインターフェース関連」、半導体製造用フォトマスクや半導体パッケージ用リードフレーム等の「半導体関連」を成長牽引事業として推進しています。これらの事業に集中投資し、世界的な需要の広がりを先取りした生産能力の増強などに努めていきます。社外のパートナーとの連携も深め、グローバルなサプライチェーンへの提供価値をさらに拡大していきます。

- 【当部門の強み】
- 大面積・高機能化技術、マイクロ・ナノ造形技術、光制御技術等を駆使し、業界最先端製品を開発
 - 有機ELディスプレイ製造用メタルマスクやディスプレイ用光学フィルム等の世界トップシェア製品による実績と信頼

デジタルインターフェース関連 (約1,730億円)

- フレキシブルハードコートフィルム
- 透明アンテナフィルム
- 有機ELディスプレイ製造用メタルマスク
- ディスプレイ用光学フィルム・偏光板用機能性フィルム・位相差フィルム など

半導体関連 (約620億円)

- 回折光学素子 (DOE)
- ペーパーチャンパー
- 半導体チップ製造に関わる材料
- 半導体用回路原版 (フォトマスク)
- リードフレーム

センサー光源等で使用

熱を拡散

成長牽引事業

エレクトロニクス部門

光学フィルム

(反射防止フィルム、防眩フィルム、位相差フィルム等)

デジタルインターフェース関連

世界シェア
トップ*

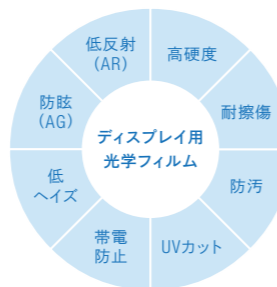
*ディスプレイ表面用の
反射防止フィルムおよび
防眩フィルムにおいて

事業概要&DNPの強み

DNPは独自の光学設計技術とコンバーティング(材料加工)技術を駆使し、多様な機能を持つディスプレイ用光学フィルムを提供しています。テレビ等の大型ディスプレイから、PCやタブレット端末、スマートフォンや車載用のディスプレイまで、さまざまな機器とその用途に合わせて多様な製品群を展開。世界のトレンドやメーカーの要望、生活者の期待まで先取りして、常にさらなる高機能化に挑戦しています。反射防止(AR: Anti-Reflection)フィルム、防眩(AG: Anti-Glare)フィルム、位相差フィルム等を次々と開発するとともに、ディスプレイ用では世界最大幅の生産設備を導入するなど、反射防止フィルムと防眩フィルムにおいて世界トップシェアを獲得しています。DNPは今後も、より鮮やかな色彩のディスプレイを実現し、各種デバイスの利用範囲の拡大とユーザビリティの向上に貢献して、人々の快適な暮らしの実現につなげていきます。

DNPの強み

- 大面積・高機能化技術、光の反射を制御する光学設計技術と材料・コーティング技術
- 高機能かつ高品質な製品を実現するインライン多層コーティング製造設備
- 材料や製造方法、製品に関する特許やノウハウを幅広く保有
- 高い生産性を追求しながら高品質な製品を安定して供給する能力
 - ・ディスプレイ向け表面処理フィルムでは、世界最大の超広幅2,500ミリライン
 - ・クリーン環境でのロールtoロール生産



DNPの技術を活かした多様な機能の付与による豊富な製品ラインアップ

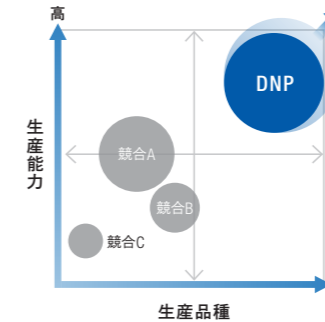
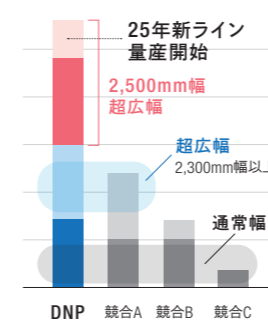


光の反射を制御して照明等の映り込みを低減する「光学設計技術」等を活かしたDNPの光学フィルム

成長戦略

- 生産能力の拡張と生産品種のラインアップ拡張によって市場を牽引し、さらなるシェア拡大をめざす
- 大型ディスプレイ向けに有利な超広幅ラインの生産能力を拡大
- 多様なフィルム基材に対応
 - ・ TAC (トリアセチルセルロース)、アクリル、PET (ポリエチレンテレフタレート) に対応可能
 - ・ DNP保有特許を活かして、大型ディスプレイ向けに、低透湿性を有し、虹むらを解消した特殊PETを活用

生産能力の拡張



生産品種のラインアップ拡張

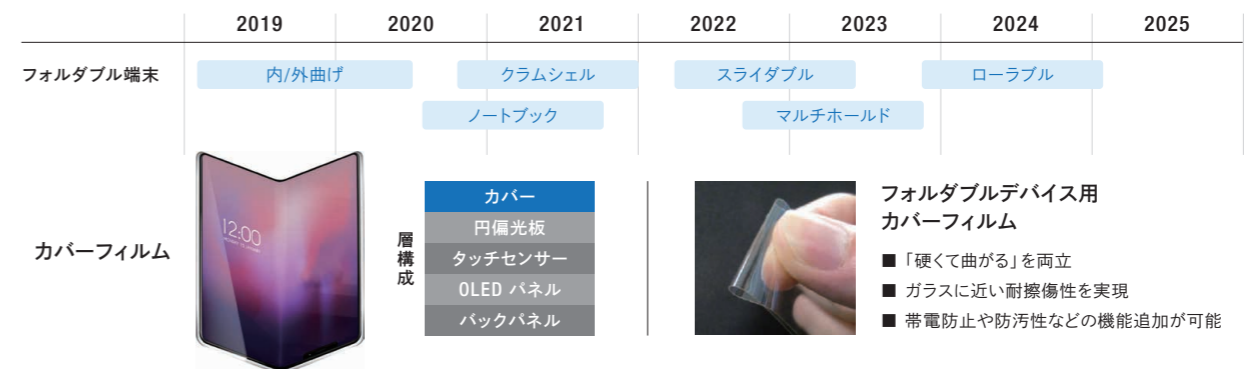
(量産実績)

基材	TAC				アクリル				PET			
	AG	AGLR	CHC	CHCLR	AG	AGLR	CHC	CHCLR	AG	AGLR	CHC	CHCLR
品種	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
DNP	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
競合A	●	●	●	●								
競合B	●	●	●	●	●	●						
競合C			●									

■ フォルダブル(折りたたみ)ディスプレイ用カバーフィルムを開発・提供

- ・ 最適な基材の選定とインキ設計・配合により、高硬度かつ屈曲性に優れたフィルムを開発

*各種資料をもとに当社推計

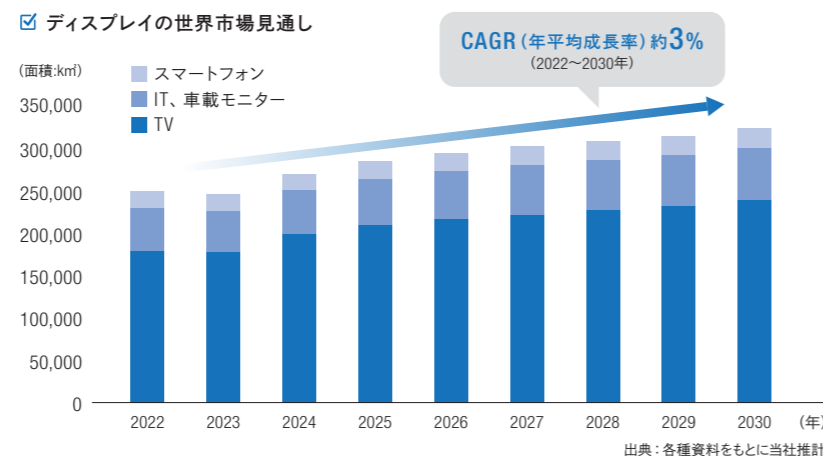


トレンド	DNPのソリューション	社会へのインパクト
<ul style="list-style-type: none"> ■ テレビなどディスプレイの大型化 ■ 利用範囲の拡大、さらなる高機能化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 低反射 ・ 防眩かつ高精細 ・ 耐擦傷 ・ 折りたたみ性 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 光を制御する光学設計技術と材料・コーティング技術 <p>ディスプレイ用光学フィルム*で世界トップシェア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ より鮮やかな色彩のディスプレイを実現 ■ デバイスの利用範囲を拡大し、ユーザビリティを向上 <p>→ 快適な暮らしの実現</p>

*ディスプレイ表面用の反射防止フィルムと防眩フィルムのシェア

市場環境

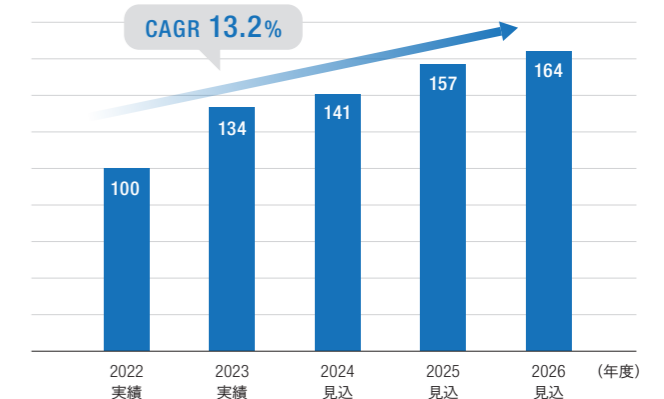
- ディスプレイ市場は、テレビの大型化等を背景に、台数では大きな成長が見込めないものの、面積において年平均成長率(CAGR)で約3%の成長を見込む



業績推移と将来展望

- DNPは、今後も継続的に変化するディスプレイ市場に対応し、高付加価値品の開発や、多様な製品ラインアップでの一層のシェアアップによって、市場の成長率を上回るCAGR13.2%を計画
- 快適な暮らしの実現に向けて、研究・開発から量産まで、ディスプレイ技術の発展に貢献
- “未来のディスプレイ”に対して、新たな価値を提供

☑ 売上高 (FY2022の実績を100とした比較)



成長牽引事業

エレクトロニクス部門

有機ELディスプレイ

製造用メタルマスク

デジタルインターフェース関連

世界シェア
トップ

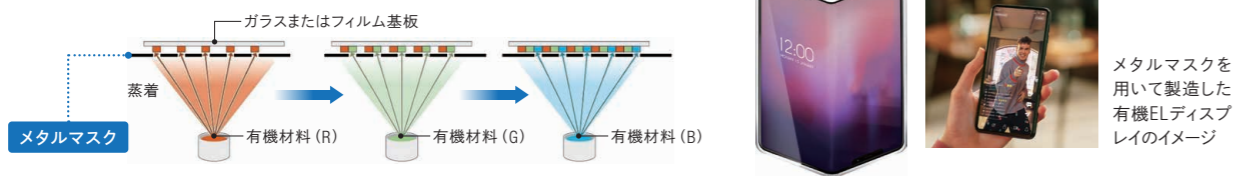
事業概要&DNPの強み

メタルマスクは、中小型の有機ELディスプレイ(OLED)製造の現在の主流である蒸着方式で、レッド・グリーン・ブルー(RGB)の有機材料をガラスやフィルムの基板上に形成する際の主要部材です。有機ELディスプレイは、スマートフォンでの採用比率が2024年に50%を超える見込みのほか、タブレット端末・ノートPC・車載用デバイスでも採用が拡大するなど、市場の成長が期待されています。DNPは独自のフォトリソグラフィとエッチング加工技術を活かして、2001年にメタルマスクの開発を開始。有機ELディスプレイの黎明期から市場に貢献し、現在はスマートフォン向けを中心に、世界トップシェアを獲得し続けています。今後もディスプレイの薄型・軽量化、高精細化に寄与するとともに、フレキシブルな形状を活かした有機ELの用途開発にも取り組み、快適な暮らしの実現につなげていきます。

DNPの強み

- 高い精度を誇るフォトリソグラフィ技術とエッチング加工技術
- 優れた技術開発力
- 材料や製造方法、製品に関する特許やノウハウを幅広く保有
- 高品質・高精細な製品を安定して供給する能力

有機ELディスプレイ製造の蒸着工程のイメージ



トレンド	DNPのソリューション	社会へのインパクト
<ul style="list-style-type: none"> ■ スマートフォン向けの需要拡大 ■ 中小型デバイスでの採用拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・ スマートウォッチ ・ タブレット ・ ノートPC ・ 車載 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 独自のフォトリソグラフィとエッチング加工技術で高精細なメタルマスクを製造 → スマートフォン向けを中心に世界トップシェアを獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ディスプレイの薄型・軽量化、高精細化を実現 ■ フレキシブルな形状を活かし、新しい用途の可能性を拡大 → 快適な暮らしの実現

成長戦略

■ 生産能力拡大に約200億円を投資

- 黒崎工場(福岡県)の生産ラインの稼働を2024年5月に開始
- 生産効率が高い第8世代のガラス基板に対応
 - ・ 有機ELディスプレイの大型化ニーズを先取り
 - ・ 事業継続計画(BCP:Business Continuity Plan)を最適化
 - ・ 既存生産拠点である三原工場(広島県)のバックアップが可能



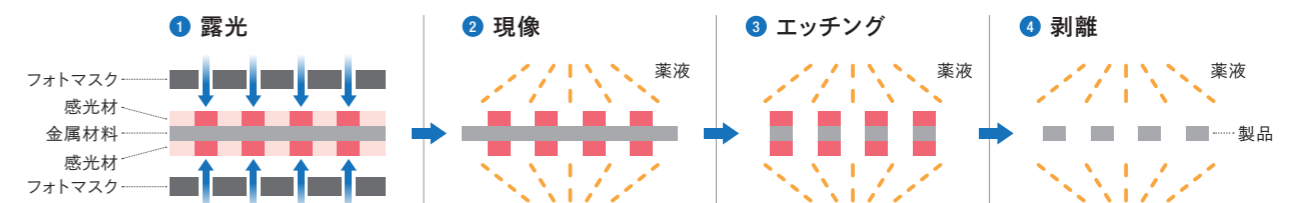
黒崎工場(福岡県)の外観

メタルマスク第8世代(左)、第6世代(中央・右)

■ 技術の強みと特許戦略を活かし、世界トップのシェアを維持・強化

- 高精細な微細加工を実現する独自のフォトリソグラフィとエッチング加工技術
 - ・ “印刷用のはんこ”をつくる技術が生んだメタルマスクより美しく鮮明に印刷するために「版」をつくる技術を磨き、高精度な「微細加工」技術へと進化
 - ・ 有機材料を通す穴の位置・大きさに高い精度が必要なメタルマスク
 - ・ 高精度なフォトリソグラフィ技術や金属のウェットエッチング技術が大きな強み

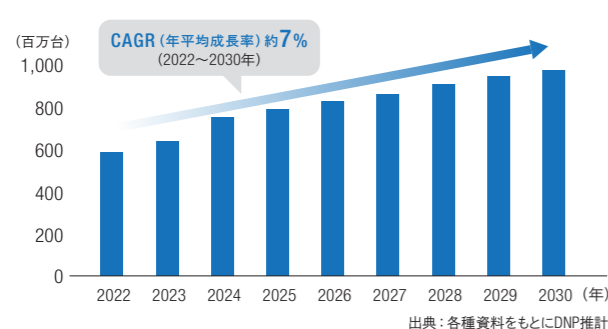
一般的なフォトリソグラフィとエッチング加工技術の概念図



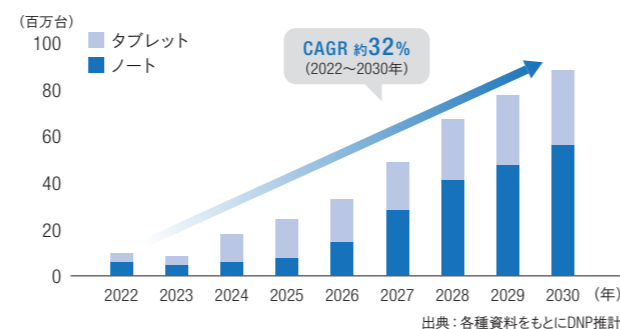
市場環境

- スマートフォン用ディスプレイの液晶から有機ELへの切り替えが進み、2022~2030年のCAGRで約7%成長
- タブレット端末・ノートPC用では約32%の成長を見込む

☑ OLEDスマートフォン向けパネル生産台数の見通し



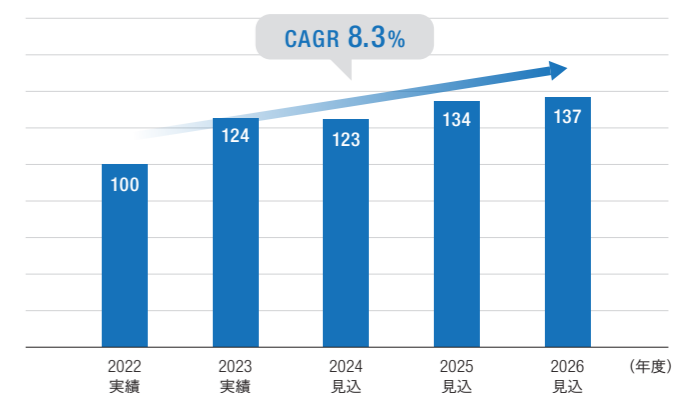
☑ OLED タブレット/ノートPC生産台数の見通し



業績推移と将来展望

- 今後も変化するディスプレイへの対応、市場への安定供給などを推進
- 成長戦略の実行により、市場成長率を上回る年平均成長率(CAGR) 8.3%の達成を計画

☑ 売上高 (FY2022の実績を100とした比較)



成長牽引事業

エレクトロニクス部門

半導体製造用

フォトマスク

半導体関連

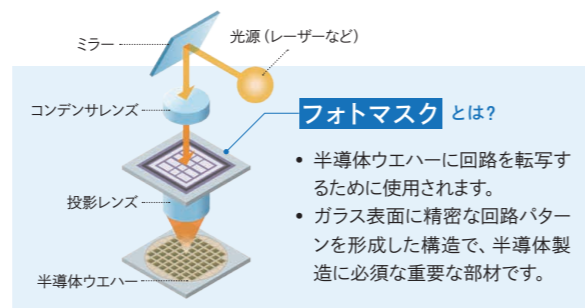
外販用フォトマスクで
トップレベルの
シェア

事業概要&DNPの強み

DNPは半導体製造プロセス全体に、さまざまな製品・サービスを提供しています。半導体チップをつくる「前工程」で必要なフォトマスクは、光を使って基板上に微細な回路パターンを転写する際の写真のネガのような役割をするガラス板です。DNPは、微細なパターンを印刷用の「はんこ」として形成し、多様な基材にそのパターンを精密に転写する微細加工技術（製版・パターンング等）を掛け合わせて、多様なフォトマスクを提供しています。1959年に成功したトランジスタ用蒸着マスクの開発に始まり、現在はナノメートル（10億分の1m）レベルのパターンを実現し、エレクトロニクス製品の進化に貢献しています。国内外でのフォトマスク等の生産能力拡大に投資するほか、社外の多くのパートナーとのアライアンスも強化し、半導体サプライチェーンへの価値提供を拡大していきます。

DNPの強み

- 半導体製造プロセス全体に多様な製品・サービスを提供
- 印刷で培った独自技術の掛け合わせによる価値創出
- ナノインプリント、EUV（極端紫外線）、カーブリニアなど、最先端の半導体製造プロセスへの対応力
- 社外とのアライアンス強化による価値創出の加速



エレクトロニクス部門全体のコアテクノロジーの例

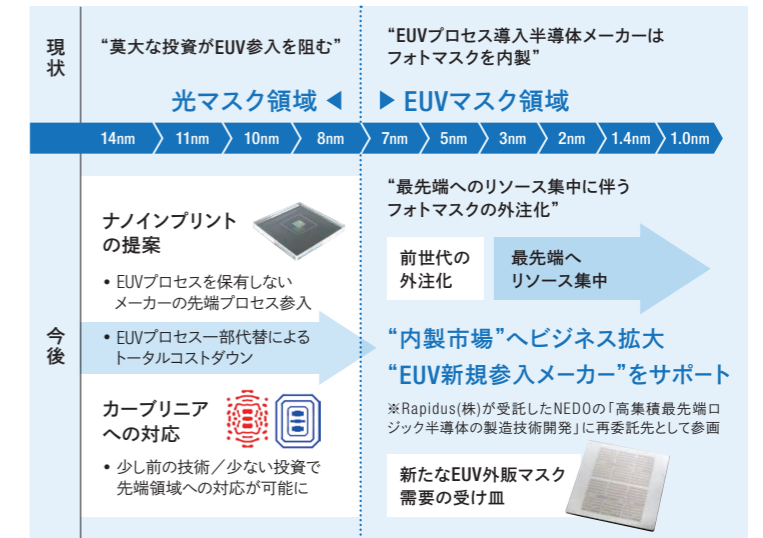
独自の光学設計技術を核に、精密薄膜クリーンコーティングや液晶コーティングなどのコンバーティング技術を駆使し、多様な機能をもつ光学フィルム製品を提供。	クリーンコンバーティング技術	微細加工技術	パターンング技術	材料を化学的に腐食、除去することで所望の構造に加工するエッチング加工技術や、金属、ガラス、樹脂製の型を使って印刷基材にその凹凸形状を複製する賦型（ふけい）技術。
基材表面に塗布した感光剤に光や電子線を使って原画像を描画露光することで、高精細な複製像を形成する技術。	フォトリングラフィ技術	精密塗工技術	コーティング技術	インキ化した材料を基材表面に薄く均一に付着させて覆うウェットコーティング。基材の設計技術と組み合わせることで、多様な機能を持つ塗膜を形成できる。

成長戦略

■ 先端領域への対応を強化

- EUV用マスクの開発を加速
 - 波長の短いEUVにより回路パターンのさらなる微細化に対応
 - マルチビーム描画機を増設
 - 3nmの開発完了～2nmの開発開始
- ナノインプリントの開発促進
 - 微細な凹凸を付けた基板を物理的に押し当てて回路パターンを形成
 - 複数工程をまとめることで、ローコスト化とカーボンニュートラルに貢献
 - 各社からの引合いが増加し、開発をサポート
- カーブリニアの開発を加速
 - 転写されない複雑なパターンをフォトマスクに形成することで、相互作用による高精細化を図る技術
 - 各社からの引合いが増加

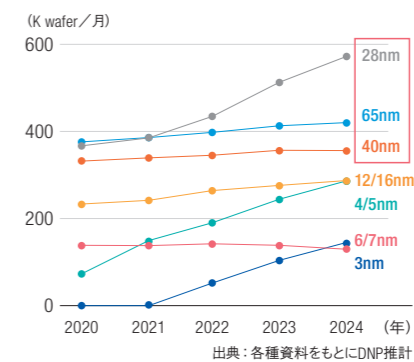
先端プロセスの進展とDNPの取り組み



■ ボリュームゾーンの半導体製品向けに生産能力を拡大

- ミドルエンドの半導体製品向け投資を推進
- 2023～2025年度の生産設備稼働で、生産能力を2025年に120%（2022年比）へ拡大

☑ ファウンダリーウエハー生産能力



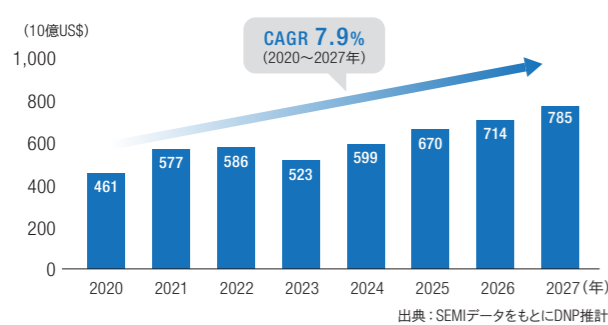
☑ フォトマスク外販市場推移



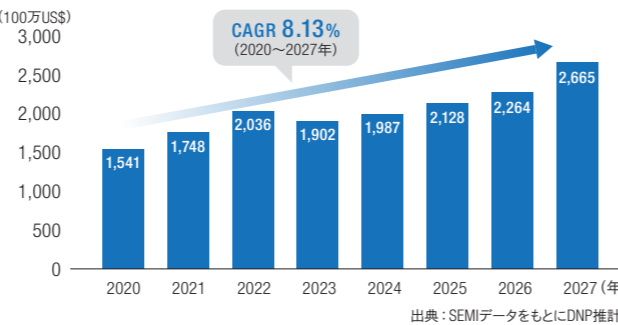
市場環境

- AIや車載用の成長が半導体市場の拡大を牽引し、2020～2027年は7.9%の成長を予測
- 半導体メーカーによる内製市場と、内製部門を持たないメーカー向けの外販市場があり、メーカー各社の旺盛な設備投資等で、外販市場も2020～2027年に8.13%成長の見込み
- DNPは主に外販市場をターゲットとしているが、今後は新製品等で内製市場にビジネスを拡大

☑ 半導体市場実績/予測



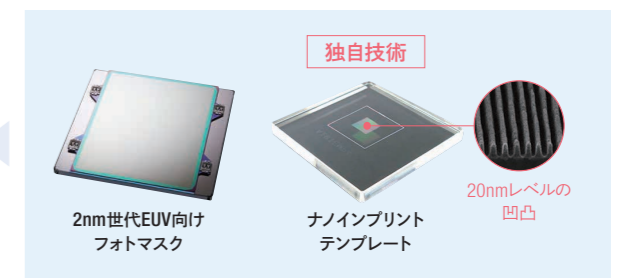
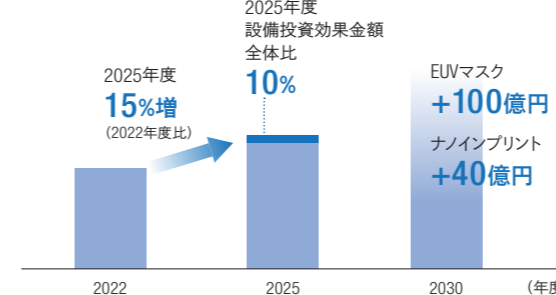
☑ フォトマスク外販市場実績/予測



業績推移と将来展望

- DNPの半導体関連事業の基幹製品として、EUV向けフォトマスクや、DNPの独自技術であるナノインプリントの開発を加速させ、先端領域での事業拡大を図る
- 拡大が続くボリュームゾーンの取り込みに向けて積極的な投資を継続し、半導体市場を上回る成長を計画

☑ 売上計画



成長牽引事業

エレクトロニクス部門

半導体用ガラスコア

(ICチップ実装用基板)

半導体関連

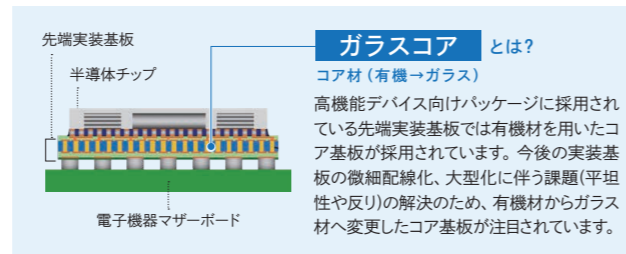
新規開拓

事業概要&DNPの強み

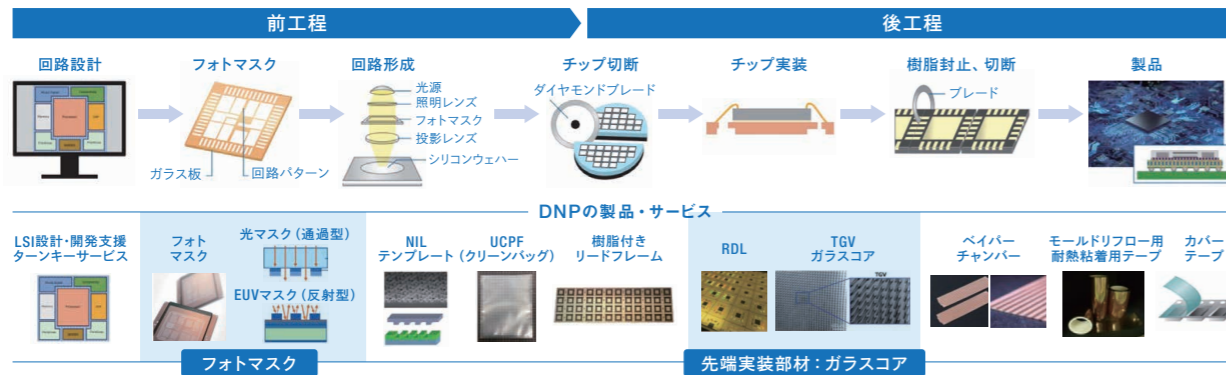
本製品は、半導体製造プロセスの「後工程」のチップ実装で用いる基板です。太い線幅の半導体の実装に使うリードフレームを製造してきたDNPは、培った技術・ノウハウを活かし、細い線幅の最先端半導体用のガラスコアの開発を進めています。半導体チップを支える基板を「コア」と呼び、現在は樹脂製が使われていますが、回路パターンの微細化とチップの大型化に合わせ、より平坦性が高く、反りの少ないコアが求められており、それを実現するガラスが注目されています。その際、ガラスの表と裏を接続する微細で高密度な貫通電極の形成が必要となります。DNPは、フォトマスクやMEMS（微小電子機械システム）で培った微細加工技術と、液晶ディスプレイ用カラーフィルターで培った薄い大型ガラスをハンドリングする技術を掛け合わせてガラスコアを実現。新たな成長を牽引する事業として開発を加速させていきます。

DNPの強み

- 独自技術の掛け合わせによって、次世代半導体パッケージ向けTGV (Through Glass Via: ガラス貫通電極) ガラスコア基板を2023年3月に開発
- 薄く大きなガラスを扱う技術や微細加工技術等を応用・発展
- DNPが開発した新工法でガラスと金属の密着性を高め、高精度化と高信頼性を実現



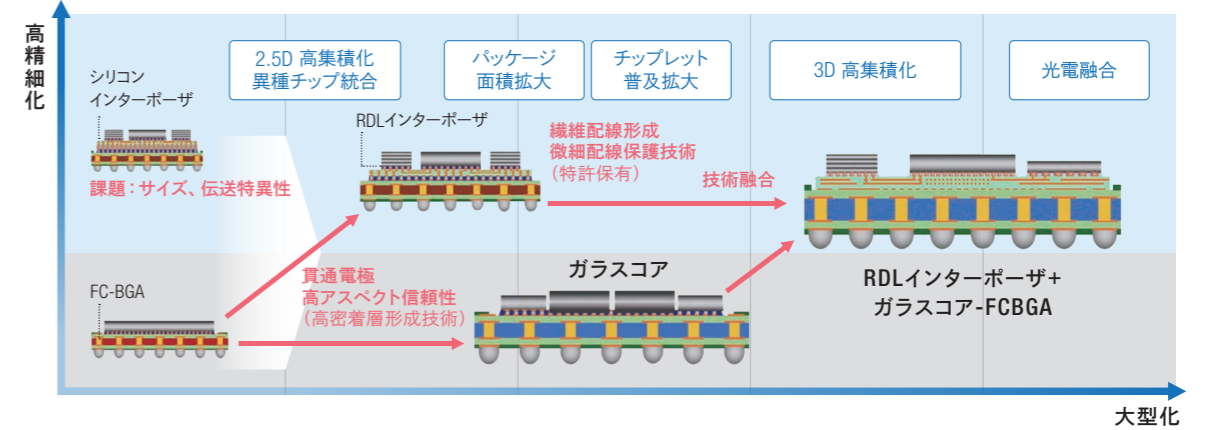
半導体製造プロセスとDNPの半導体関連製品・サービス



成長戦略

- 半導体製品用の先端実装基板のロードマップを策定し、新しい価値を着実に創出。DNPの独自技術の掛け合わせと、サプライチェーン各社との協働を強みとして新製品を市場に展開

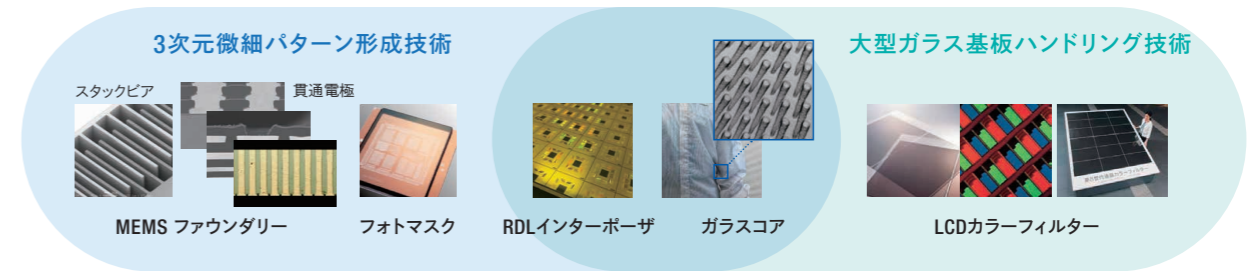
DNP先端実装基板ロードマップ



- 基盤技術を活かした半導体先端実装部材のラインアップ拡充

- ・ 実績のあるリードフレームから先端実装領域へ広げて、次世代の成長を牽引する新規事業を推進
- ・ 光電融合といった次世代の技術に対応したビジネスも展開

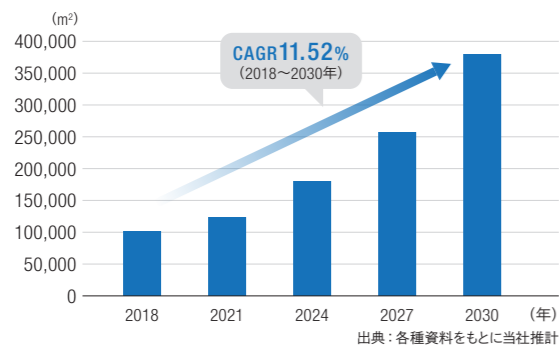
DNP基盤技術と半導体先端実装部材



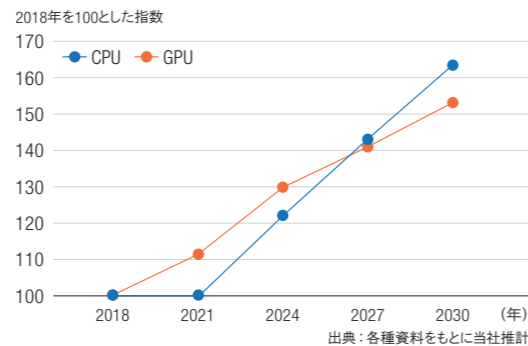
市場環境

- AIの進展・半導体チップの拡大を背景に先端デバイス向けの実装基板は大型化が進む
- 基板の大型化に伴い、反りや平坦性の課題を解決するガラスコアの需要が増加
- 特にサーバー用のCPU/GPU向け先端実装基板市場をDNPの事業ターゲットに

サーバー向け先端実装基板の数量予測 (面積ベース)



サーバー向け平均先端実装基板サイズの推移予測

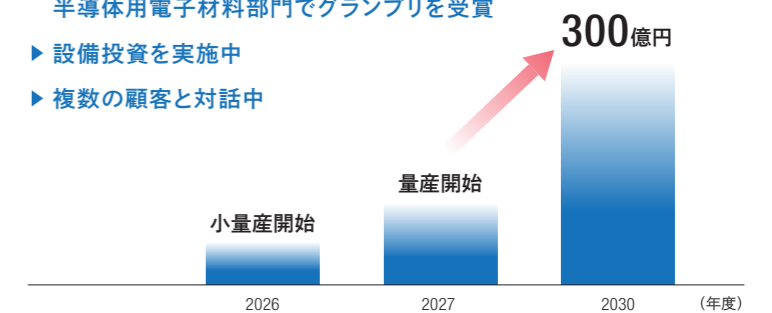


業績推移と将来展望

- DNPの次世代半導体パッケージ向け「TGVガラスコア基板」が、2023年に「半導体・オブ・ザ・イヤー」(産業タイムズ社主催)でグランプリを受賞。市場の期待と各企業のニーズを受けて設備投資を加速させ、2026年度に小量産を、2027年度に量産を開始

- 並行して開発中のRDL (再配線層) インターポーザ等も含めて、先端実装部材を2030年度に売上300億円規模の事業に成長させていく

- ▶ “市場からの期待” 「半導体・オブ・ザ・イヤー2023」半導体用電子材料部門でグランプリを受賞
- ▶ 設備投資を実施中
- ▶ 複数の顧客と対話中



成長牽引事業

ライフ&ヘルスケア部門

リチウムイオン電池用

バッテリーパウチ

モビリティ・産業用高機能材関連

世界シェア
トップ

事業概要&DNPの強み

バッテリーパウチとはリチウムイオン電池の外装材であり、電池の中身を保護する役割を持ちます。高い絶縁性や高いシール性・気密性など、この製品に欠かせない機能をDNPは独自技術の掛け合わせによって実現しています。フィルムタイプのため、従来の金属缶タイプと比べて軽く、加工性に優れ、スマートフォンやタブレット端末等のIT用と、電気自動車 (EV) 等の車載用で市場が拡大。DNPはこうした需要の広がりを先取りして、国内外で本製品の生産能力を高め、独自のコンバーティング技術や保有特許等の強みをさらに活かして、世界トップのシェアを維持・強化していきます。また、業界のデファクトスタンダード構築に努め、グローバル市場におけるプレゼンスを高めていきます。

パウチに必要な機能を実現するDNPの強み

- 電解液を漏らさないための「高いシール性・気密性」
- 外部からの水の混入を防ぐための「高い水蒸気バリア性」
- 電池容量を増やすための「高い成形性」
- 高電圧・大型電池に対応するための「高い絶縁性」
- 過酷な環境下での稼働を安定させるための「耐熱・高温下での安定性」



競争力をさらに高めるDNPの強み

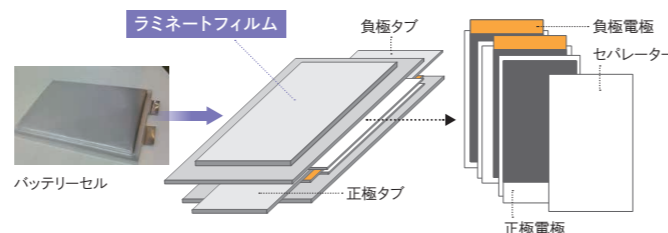
- 世界標準
- 大型電池用途でも安定した品質実績
- 自動車産業向け品質マネジメントシステム「IATF 16949」の認証を取得



製品イメージと製品展開



ラミネートセル構造



成長戦略

- 生産技術: 独自の開発プロセスと社内での開発・製造によってノウハウの流出を防止
- 製品開発: 自社での材料設計と材料メーカーとの特別な提携によって技術を高度化
- 競合対応: 500件以上の特許を活かし、新規参入を抑制しつつ、強みを最大化
- 顧客対応: 世界各地での適地生産を検討し、生産能力の増強を推進

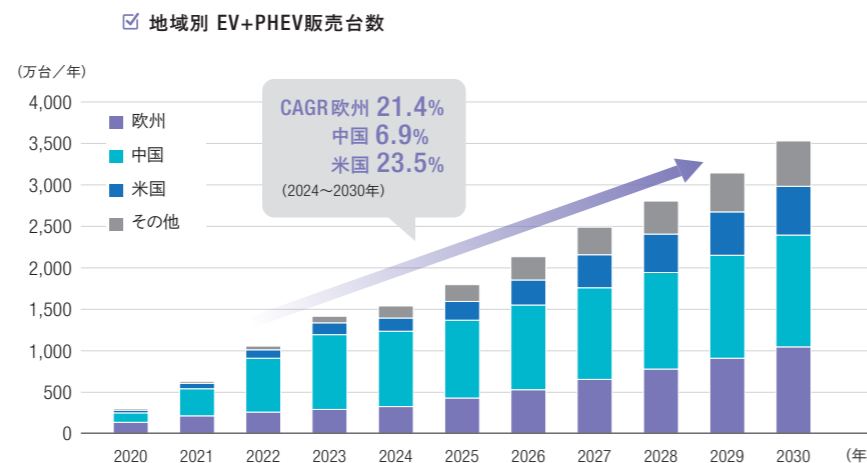
長年培った高品質・高信頼性を強みに「パウチにおける業界リーダー」を堅持・拡大

生産技術 長年の製造で磨き上げた品質と信頼性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 独自開発プロセスに合致した内製設備開発 ~全てDNP社内開発設備で生産 ・ プロセス適応性、ノウハウの流出防止 ・ 高生産性、高歩留り、自動化を推進 	製品開発 自社設計による機能性追求 <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料開発: 自社設計、材料メーカーとのアライアンス ・ プロセス開発: 独自プロセスによる特性向上 - 長期耐久性、信頼性をさらに高める - 高性能パウチ (絶縁、耐熱性、成型性 など) - 次世代電池 (半固体、全固体 など) にいち早く対応
競合対応 製品・技術の参入障壁確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 多数の特許を保有し、他社の参入を抑制 (500件以上の権利保有) ・ 製造ノウハウの秘匿 (製造設備の内製 など) ・ 材料メーカーと連携した戦略材料の開発・製造 	顧客対応 戦略顧客との関係強化、現地生産 <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバルEV電池メーカーとの関係強化 - 車載: 車載用電池メーカーへの供給量確保 自動車メーカー (OEM) との関係強化 - IT用途: 有力顧客との関係強化 ・ 各国の政策に対応し、現地生産化推進



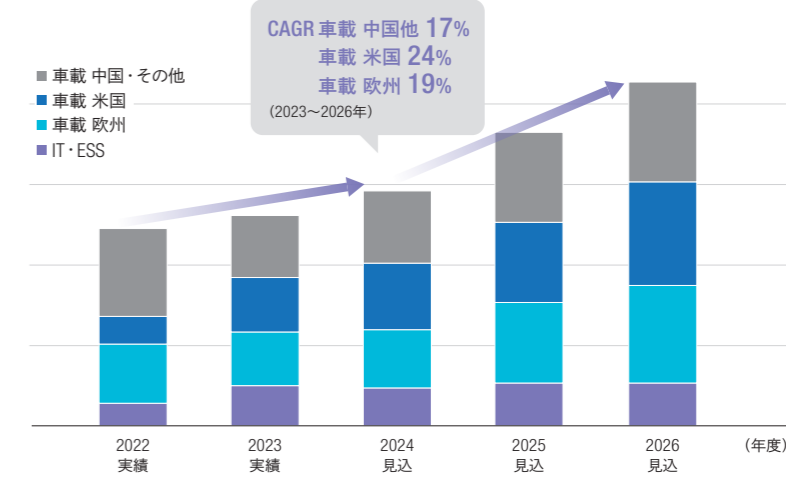
市場環境

- 自動車の電動化への大きな流れは、EV (電気自動車)・PHEV (プラグインハイブリッド車)・HEV (ハイブリッド車) を含めて確実に進む見込み



業績推移と将来展望

- 2020年まではスマートフォン・タブレット端末・ノートPC等のIT用を中心に拡大したが、その後、車載用が増えて全体の7~8割に
- 2023年度は欧米のEV用が鈍化しているものの、2025年以降はEV・PHEV・HEVでの利用が増える見込みで、バッテリーパウチも年率15~20%の伸びを見込む



新規事業

ライフ&ヘルスケア部門

DNPグループが展開

する医療ヘルスケア事業

メディカル・ヘルスケア関連

新規開拓

事業概要&DNPの強み

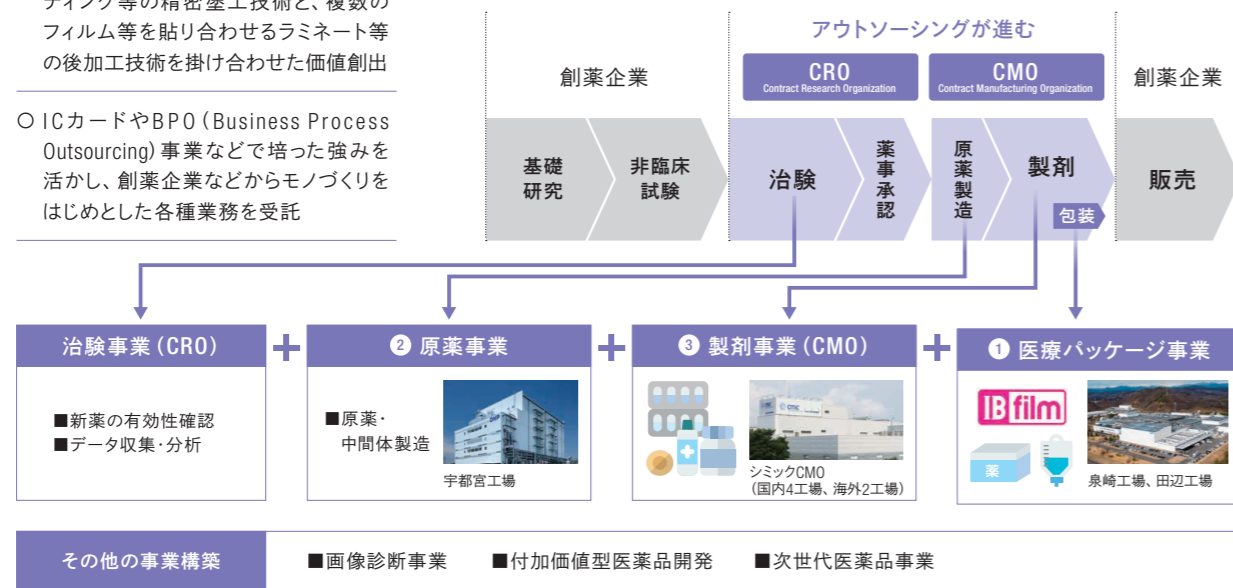
DNPは、さまざまな機能を付与したフィルム等を多層構造化し、酸素や水蒸気等から内容物を守り、保存期間を長く・配送しやすく・多くの人々に使いやすくするパッケージ事業を展開しています。包装事業を中心に1950年代から培っているこうした強みを活かした「①医療パッケージ事業」を推進するとともに、2013年にスタートした「②原薬事業」に力を入れています。2023年にシミックCMO株式会社を連結子会社にする事で獲得した「③製剤事業」を含めた三つをDNPの医療ヘルスケア事業の中心に据えています。また、治験のアウトソーシングや医療画像診断などの事業も、グループとしての強みを掛け合わせて推進。医薬品の付加価値をさらに向上させる事業や、再生医療関連の事業など、医療関係のサプライチェーン全体に貢献する価値の提供に努めていきます。

DNPの強み

- 機能性材料を薄く均一に塗布するコーティング等の精密塗工技術と、複数のフィルム等を貼り合わせるラミネート等の後加工技術を掛け合わせた価値創出
- ICカードやBPO (Business Process Outsourcing) 事業などで培った強みを活かし、創薬企業などからモノづくりをはじめとした各種業務を受託

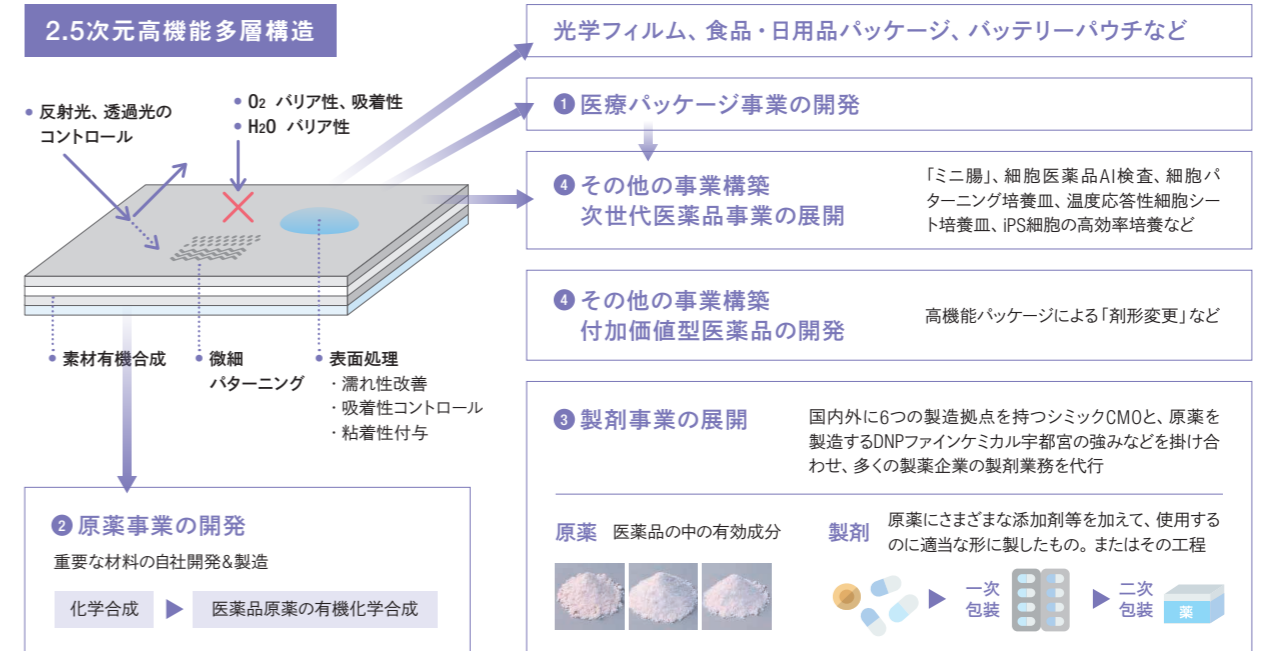
DNPの医療ヘルスケア事業 概要

創薬企業のアウトソーシング領域を、DNPの事業の中核に据える



成長戦略

- ① 医療パッケージ事業：多様な機能のフィルム等を多層構造化する強みを活かし、医薬品や医療機器のパッケージを開発・提供。製剤技術との掛け合わせで、抗がん剤などの付加価値向上もめざす
- ② 原薬事業：化学合成プロセスを備えたDNPの工場で、多層構造用の原材料や医薬品原薬の開発を推進。シミックCMOとの連携を深めて、原薬から製剤までの一貫製造プロセスの構築などもめざす
- ③ 製剤事業：シミックCMOはCMO (Contract Manufacturing Organization) 事業者として国内3位。国内外の6つの工場で300品種以上の医薬品の製造を行ってきた強みを活かして事業を拡大
- ④ その他の事業構築：製薬企業の治験業務の受託、AI技術の実用化へのトライも含めた画像診断事業の展開、付加価値型の医薬品開発、再生医療や細胞医薬品関連の各種部材の開発など



市場環境

- 世界の医薬品市場規模は2018年の141兆円から、2030年には196兆円に拡大すると予測
- 化学合成で製造する「低分子医薬品」のウェイトが高く、特に抗がん剤などの高薬理活性医薬品は高い伸びを示す見込み
- DNPは低分子医薬品の領域を中心に医薬品製造を行うほか、バイオ医薬品や細胞医薬品の事業構築もめざす

低分子医薬品

市場規模が大きく主要な市場成熟期だが、安定的成長



(内数) 高薬理活性医薬品

21兆円 (2022) → 42兆円 (2030) (CAGR: 10.0%)

バイオ医薬品

市場拡大を期待されている設備投資負担大きい

30兆円 (2018) → 70兆円 (2030) (CAGR: 7.3%)

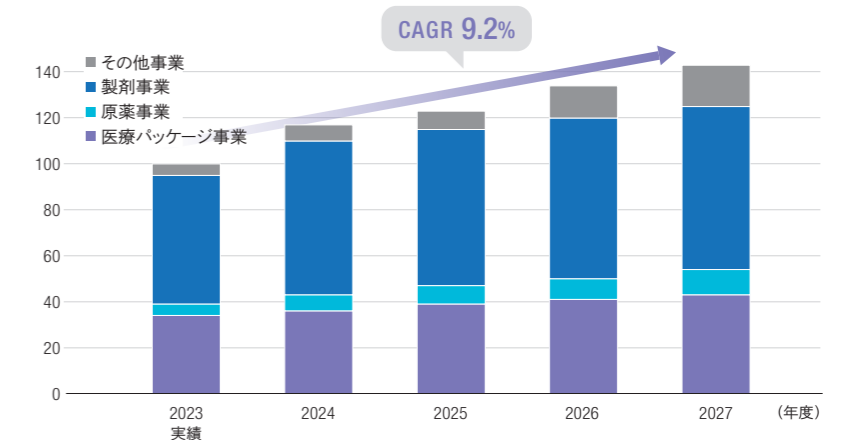
細胞医薬品

9,500億円 (2021) → 4,4兆円 (2026) (CAGR: 47.6%)

業績推移と将来展望

- ①医療パッケージ事業、②原薬事業、③製剤事業などを安定的に成長させて、2027年には2023年度の実績の1.4倍強の売上をめざす (年平均成長率9.2%を見込む)
- DNPグループは、製薬企業をはじめとする顧客企業に今まで以上に貢献するとともに、人々の健康で安全・安心な生活を継続的にサポートしていく

医療ヘルスケア事業の売上計画
2023年度の実績を100とした比較



*出典1:「医薬品・再生医療・細胞治療・遺伝子治療関連の産業化に向けた課題及び課題解決に必要な取組みに関する調査」, Arthur D. Little URL:https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryuu/siryuu/pdf/r01hosei_jiyakukanren-sangyouka_saisei02.pdf
*出典2:WorldPreviewReport Final 2021 URL:https://www.scribd.com/document/578590998/WorldPreviewReport-Final-2021#
*出典3:世界のバイオシミラー市場は2022年から2031年まで年平均24.7%成長すると見込まれる URL:https://www.report.jp/biosimilars-market-by-type-human/

新規事業

スマートコミュニケーション部門

コンテンツプロデュース、XR

コミュニケーション等の事業展開

コンテンツ・XRコミュニケーション関連

新規開拓

事業概要&DNPの強み

創業当時の舎則に掲げている「文明に資する業を営む」は、現在もお受け継がれており、人々の知や文化の醸成・発展に貢献するさまざまな事業を展開しています。中期経営計画の新規事業である本事業では、「コンテンツを最適なかたちで伝え 新たな価値を生み出し、快適な暮らしを支え、心豊かな文化を育む。」というビジョンを掲げ、「情報加工・変換技術を核に、リアルとバーチャルを融合させたコミュニケーションモデルを創出し、人と社会をつなぎ『新たな体験価値』を世界に届ける。」というミッションを推進しています。「コンテンツプロデュースの推進」と「XRコミュニケーション」の事業展開と、それを支える「共通基盤」を3つの機能とし、「より良い未来」に向けて文化を育み、快適で楽しい暮らしの実現をめざしていきます。

DNPの強み

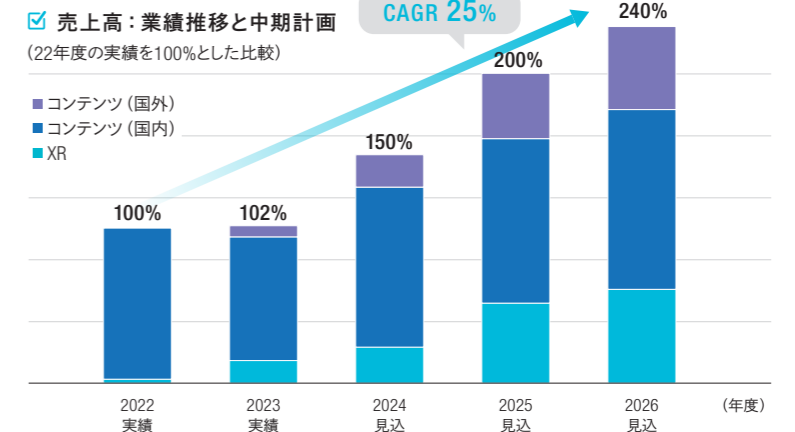
- 世界中の多様なコンテンツホルダーやクリエイターとのネットワーク
- 高精細画像処理技術や著作権処理の実績と信頼
- 認証技術と大量データ処理技術を活用した、ビジネスプロセスを統合・最適化する能力
- これらの強みを応用し、リアルとバーチャルを安全・安心にシームレスにつなぎ、新たな経済圏を創出

コンテンツ・XRコミュニケーション 基本機能

- 1 コンテンツプロデュース**
(コンテンツ価値の変換)
- 2 XRコミュニケーション®**
(リアルとバーチャルの融合による価値創造)
- 3 コンテンツ・XR領域の共通基盤**
「コンテンツ企画・制作・開発」「認証・セキュリティ」「EC」「BPP/BPO」

業績推移と将来展望

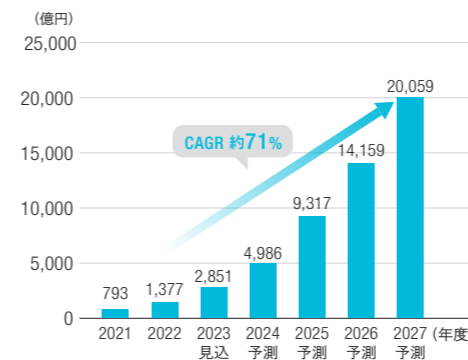
- DNPは本事業で、2026年度に2022年度比240%の売上拡大を図る
- コンテンツへの投資や、企業・団体等とのコラボレーションを積極的に推進。例えば、2024年5月にはXRコミュニケーションの基盤強化としてmonoAI technology株式会社と資本業務提携を締結。今後も提携パートナーとともに事業推進体制を強固にしていく



「2.XRコミュニケーション®」の事業展開

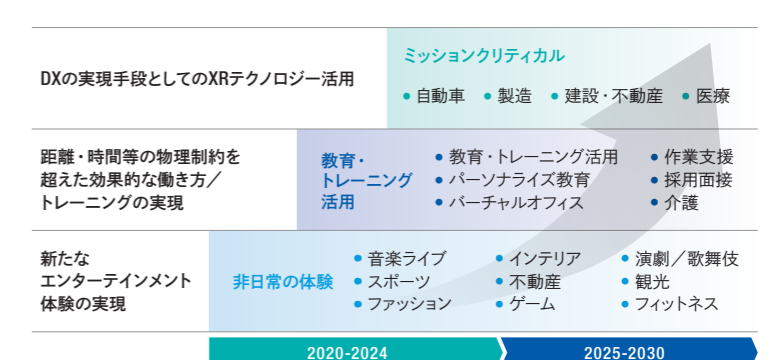
- DNPは、XR (Extended Reality) 技術を活かし、リアルとバーチャルの空間を双方に融合して、人々の体験価値と経済価値を高める「XRコミュニケーション事業」を展開。関連する国内市場は2027年までに年率71%の成長が見込まれ、2兆円規模に達する見込み。エンターテインメントに加え、教育や地域課題の解決、企業マーケティングなどでの活用が期待されている
- DNPは、多くの自治体や企業・団体と連携を深め、行政サービスを拡張する「メタバース役所」や、不登校児・日本語指導が必要な児童向けのメタバース空間、企業の周年イベントやマーケティングイベント等の提供なども行っている

XR・メタバースの国内市場



出所：矢野経済研究所「メタバースの国内市場動向調査(2023)」より

XR・メタバースの活用領域の展開シナリオ

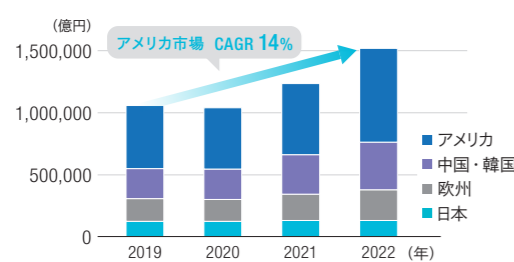


出所：「デロイト トーマツ コンサルティング」より

「1.コンテンツプロデュース」の事業展開

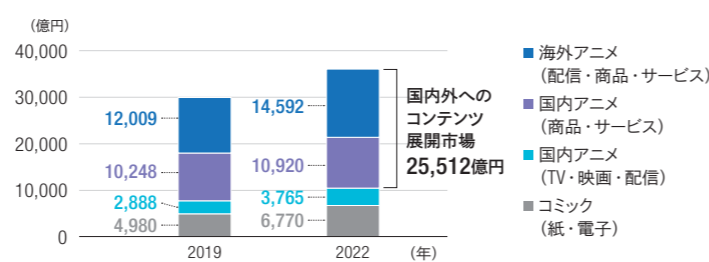
- 海外のコンテンツ市場規模は直近10年で約2倍に拡大。マンガ・アニメ・ゲーム等からの各種商品化や展示会などの2次展開も需要拡大に寄与。多様なメディアでコンテンツを楽しむスタイルが世界中で定着
- DNPは情報加工・変換技術やソフトとハードの開発力を活かしてビジネス領域を拡大。2024年4月には、国内で展開してきた「東京アニメセンター」を米国サンフランシスコにも開設。各種企画展やイベント、ゲーム機器開発などを含む多様なビジネスを国内外で展開していく

海外のコンテンツ市場規模の推移



出所：ヒューマンメディア「日本と世界のメディア×コンテンツ市場データベース」より

日本発のコンテンツの展開構成



当社調べ

「あこがれに近づく」を世界に届ける

コンテンツ活用ビジネスの拡大

「多様なメディア展開のプロデュース」

- 企画展・イベント・商品を核にした自主興行ビジネスの拡大
- DNP技術を応用したゲーム機器の開発・提供

日本の成功モデルを海外展開

- マンガ・アニメ企画展
- オリジナル商品の販売
- アミューズメントゲーム機器提供

グローバルビジネスの発展

「日本のコンテンツの海外展開」

海外での日本発のイベント・商品・サービスの展開

Tokyo Anime Center
東京アニメセンター
IN SAN FRANCISCO

北米展開から開始

北米での出展イベント (2023年度実績)

Anime Expo @Los Angeles New York Comic con Anime Matsuri@Houston

※「東京アニメセンター」は一般社団法人日本動画協会とDNPの共同運営事業です。

未来のインフラとして社会実装した新たな経済圏を創出

地域連動XRサービス「PARALLEL CITY®」

来庁不要な「メタバース役所」

教育向けメタバース

Virtual Learning Platform

自治体が抱える多様な課題解決に向けた実証事業を開始 (江戸川区)

不登校や日本語指導が必要な子供向けの居場所づくりの取り組みを展開 (東京都)

企業向けXRマーケティング「PARALLEL SITE®」

マーケティングイベント

企業イベント

イベントやセミナーなど、生活者との多彩なコミュニケーションの施策

さまざまな拠点に点在する社員が一堂に会し対話できる大規模イベント